

待して【私の住みたい夢のまち】の絵画展とした。「児童のまち」「お菓子のまち」など子供の夢が詰まった作品が多く見られるようになった。その作品のうち入賞作一二七点を前橋市中央公民館に展示して、多くの市民に楽しんでもらう事にした。

主な入賞者は次の通りである。

▽前橋ユネスコ協会会長賞

宮下 峻 (芳賀中二)

▽教育長賞

萩原柚月 (大胡東小五)

▽前橋商工会議所会頭賞

木村誠輝 (みずき中二)

▽群馬日野自動車賞

黒岩幸愛 (桃木小五)

▽前橋ユネスコ協会賞

小淵裕貴 (芳賀小三)

▽前橋西ロータリークラブ会長賞

鈴木寛志 (芳賀小四)

▽金賞

関口愛子 (永明小一)

小曾根夢来 (敷島小二)

小林遙斗 (大胡東小二)

升谷心紅 (永明小二)

北爪来海 (宮城小五)

関 麗奈 (荒砥中二)

なお、場所の関係で全部の作品を中央公民館に展示出来ないため、所属の学校に全部展示してもらうようお願いした。



高崎ユネスコ協会

組織の活性化を目指して

昭和四十一年に創設された本協会の会員数は九十名であった。その後、会員数は増加を続け、昭和六十二年には会員数ピークの三九一名に達した。しかし、その後は減少し始め、平成十五年には二二三名までに落ち込んだ。

日ユ協連では活動の重点の一つとして、会員の増加を挙げているが、高崎ユネスコ協会においても会員数の拡充は重要な課題である。本協会では近年、会員の高齢化が進み退会者が増えている現状にある。これを打開し、組織を活性化するためには、会員数の拡充を図ることが喫緊の課題である。そこで本協会は普及

啓発活動と広報活動等を通して、この課題に対応することにした。そのため普及部を創設し会員数を増やすための取り組みを始めた。活動方針として、若い世代の勧誘、合併した町村への拡大、役員の中核を担う人材の発掘を目指しながら会員拡充を図ることとした。普及啓発活動のあらましは以下の通りである。

1 啓発活動

○総会や行事等の機会に会長及び普及部長がユネスコ活動についての啓発を行う。

○広報誌「高崎ユネスコ」を活用して会員の啓発を行う。

○新聞や地元ラジオ局等のマスコミを通じて、行事の紹介等を行う。

○諸行事に会員及び市民が参加するように促す。(案内チラシ配布、高崎広報活用、マスコミ利用)

2 普及活動

○「高ユ協の活動のあらまし」(本ユ協の沿革・組織及び活動の概要紹介のA4版冊子)の活用

○入会勧誘のチラシ作成とその活用

役員理事が前記の冊子やチラシを配布しながら、熱心に勧誘活動を行った結果、平成二十四年度会員数は三〇九名までに回復し、平成二十五年度現在は会員数三二九名を数えるまでになった。これは会長が先頭に立って普及活動をしたことや、役員理事が一丸となって会員募集に奔走したことによる成果と考える。また、この普及活動は組織の活性化につながったように思われる。

富岡ユネスコ協会

会長 高橋總一郎

新年おめでとうございます。

富岡製糸場と絹産業遺産群のユネスコ世界遺産登録に向けて、昨年九月の二十五・二十六日二日間の日程でユネスコの諮問機関「国際記念物遺跡会議(イコモス)」による現地調査が終了し、世界文化遺産登録の決定が待たれる今日この頃、当会では八月四日に市内の小中学生を対象に富岡製糸場と絹産業遺産群の構成資産を巡る富岡ユネスコスタディーツアーを実施しました。

当日は、猛暑の夏にも関わらず天候に恵まれ、荒船の風穴、高山社、富岡製糸場を見学し、バスの中ではCDによる勉強会、そして夏休みの自由研究のアドバイスを行い、子供たちにとって有意義な一日になったと思います。

合唱団は、六月二十九日に開校式、妙義自然の家にての夏休み合宿、富岡市文化祭、定期演奏会に向けて練習に励んでおります。

又、さる十月十二日には公益財団法人「ベイシア二十一世紀財団」より本年度、文化事業団体として定期演奏会活動に対して助成を受ける事ができましたので、ご報告申し上げます。

今年も、ユネスコ世界寺子屋運動の推進として会員の皆様に書き損じハガキの募集のご協力をお願いしたいと考えております。お陰様で昨年度は書き